

## 現役隊員の 挑戦

中富良野町  
地域おこし協力隊  
小野寺 麗南さん  
酪農ヘルパー（活動期間2024年4月）

### 現役隊員にQ&A

- Q** 1日のスケジュールを教えてください。
- A** 牧場によって異なりますが一例としては、【5:30～仕事開始、6:00～餌やり、7:30～搾乳、9:30～餌やり、11:00～放牧、12:00～自由時間、17:00～餌やり、18:30～搾乳、19:30～餌やり】になります。
- Q** 地域おこし協力隊でよかったと思うことは？
- A** 実際に現場で働くことで、夢への一歩を踏み出せていること。同じ協力隊の仲間たちと一緒に、地域イベントなどに参加するのもすごく楽しいです。
- Q** これから地域のためにやりたいことは？
- A** 中富良野町の酪農をさらに盛り上げていきたい。先輩方が築き上げてきた伝統や技術を、私たち若い世代がしっかり受け継ぎ、新しい風を吹き込んでいけたらと思っています。

# 大好きな中富良野の 酪農を元気にしたい！

「ありがとう」の言葉が  
大きなやりがい

北海道の真ん中、富良野盆地に位置し、十勝岳を正面に望む中富良野町。2024年4月からこの町で酪農ヘルパーとして活動中の小野寺麗南さんは、宮城県出身。常広畜産大学在学中に「将来は自分で牧場を経営したい」との目標を持ち、その第一歩として、「もっと多くの現場を知りたい」と、中富良野町の地域おこし協力隊に応募しました。

小野寺さんは、現在、週5～6日、1日6時間の勤務で、町内の4戸の牧場を日替わりで担当し、餌やり、搾乳、畜舎の掃除、放牧などの作業を行っています。乳牛が健康でストレスなく過ごせるように、また、搾乳するための繁殖周期の確認など、日々細やかな配慮や観察が必要。「生き物相手の仕事は大変ですが、ありがたい」と言われると、やっていて良かったと心から思います」と笑顔で話す小野寺さん。特に印象深いのは、牧場の関係者がいない間に、難産の初産に立ち会い、先輩と協力して無事に出産を終えた経験。「あなたたちがいてくれて良かった」と言われた時は本当にうれしかったと振り返ります。



①畜舎の掃除の様子。牛たちの健康を守るために欠かせない作業です。  
②今回の取材で伺った河地牧場の河地恵さんは、「地域おこし協力隊の活動にすごく助けられています」と話します。③餌やりは1日4回に分けて行います。④取材の前日に生まれたばかりの仔牛。命の誕生とふれあえるのも酪農の魅力です。⑤道路を横切り放牧地へ向かう様子。牛の動きを見守りながら慎重に進められます。⑥地域おこし協力隊の活動として、隊員全員で「ふらの北海へそ祭り」に参加。

仲間とともに、  
このまちを守りたい

中富良野町の地域おこし協力隊は、20代から60代まで幅広い年代の18人が所属し、様々な分野で町の活性化を目指しています。

地域おこし協力隊の活動の中で、地域のお祭りやイベントに参加し、住民の方と親しくなる機会も多く、「皆さん、移住者の私を、あたたかく迎えてくれました」。

また、四季を通して美しい自然やおいしい食など、中富良野町の魅力を知るたびに、愛着がどんどん深まっていったと言います。

小野寺さんは、地域おこし協力隊の任期終了後、中富良野町で自分の牧場を持つことを目標としています。実際にこの地で暮らし活動することで、地域の産業を守りたいという思いが強まったそうです。同じような気持ちの仲間が増えて、中富良野町の酪農を元気にすることができればと、今年の春から酪農の魅力や現状を多くの人に伝えるため、SNSでの情報発信もスタート。「この仕事の楽しさと同時に、自然とともに生きる喜びや、地域での暮らしの素晴らしさも、今後たくさん伝えていきたいです」と意気込みます。

酪農現場を支え地域を元気にするため、小野寺さんは、未来に向かって着実に歩み続けています。

酪農の現場を  
SNSで発信！

